

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 6 部門第 4 区分
 【発行日】 平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)

【公開番号】 特開 2005-71605 (P2005-71605A)
 【公開日】 平成 17 年 3 月 17 日 (2005.3.17)
 【年通号数】 公開・登録公報 2005-011
 【出願番号】 特願 2004-354503 (P2004-354503)
 【国際特許分類】

G 1 1 B 7/24 (2006.01)

【F I】

G 1 1 B	7/24	5 4 1 D
G 1 1 B	7/24	5 2 2 P
G 1 1 B	7/24	5 3 1 E
G 1 1 B	7/24	5 4 1 K
G 1 1 B	7/24	5 4 1 N
G 1 1 B	7/24	5 4 1 P

【手続補正書】

【提出日】 平成 18 年 4 月 26 日 (2006.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一主面に信号領域を備えた第 1 の基板と、前記第 1 の基板の前記一主面側に貼り合わされた第 2 の基板とを備える光ディスクであって、

前記第 2 の基板の厚さは前記第 1 の基板よりも小さく、

前記第 1 の基板と前記第 2 の基板とが、前記第 1 の基板と前記第 2 の基板との間に配置された接着部材によって貼り合わされており、

前記第 1 の基板は、前記一主面に形成された凸部を備え、

前記凸部の前記一主面からの高さが、前記第 2 の基板の厚さと前記接着部材の厚さとの和よりも大きいことを特徴とする光ディスク。

【請求項 2】

前記凸部の前記一主面からの高さが、0.05mm 以上 0.5mm 以下であることを特徴とする請求項 1 に記載の光ディスク。

【請求項 3】

前記第 1 の基板は、中心孔 A を有し、

前記凸部は、前記中心孔 A を囲むように円環状に形成されている請求項 1 または 2 に記載の光ディスク。

【請求項 4】

前記第 2 の基板は、前記中心孔 A よりも直径が大きい中心孔 B を有し、

前記接着部材は、少なくとも前記第 2 の基板の内周端から外周端にかけて配置されており、

前記凸部の外径が前記中心孔 B の直径以下である請求項 3 に記載の光ディスク。

【請求項 5】

前記第 2 の基板の厚さが、0.03mm～0.3mm の範囲内である請求項 1～4 のいずれかの項に記載の光ディスク。

【請求項 6】

前記第 1 の基板の前記信号領域に、複数の信号記録層が形成されている請求項 1 ～ 5 のいずれかの項に記載の光ディスク。

【請求項 7】

前記接着部材が放射線硬化性樹脂である請求項 1 に記載の光ディスク。

【請求項 8】

前記中心孔 B がクランプ領域よりも大きい請求項 4 に記載の光ディスク。

【請求項 9】

前記接着部材が、前記クランプ領域よりも外周側に配置されているか、または前記クランプ領域のすべてを覆うように配置されている請求項 8 に記載の光ディスク。

【請求項 10】

前記第 1 の基板の前記クランプ領域の厚さが、1.1 mm 以上 1.3 mm 以下である請求項 8 に記載の光ディスク。

【請求項 11】

前記接着部材の平均厚さが、0.5 μ m ～ 30 μ m の範囲内である請求項 1 ～ 3 のいずれかの項に記載の光ディスク。

【請求項 12】

情報の再生のために照射されるレーザの波長が、450 nm 以下である請求項 1 ～ 3 のいずれかの項に記載の光ディスク。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記目的を達成するため、本発明の光ディスクは、一主面に信号領域を備えた第 1 の基板と、前記第 1 の基板の前記一主面側に貼り合わされた第 2 の基板とを備える光ディスクであって、前記第 2 の基板の厚さは前記第 1 の基板よりも小さく、前記第 1 の基板と前記第 2 の基板とが、前記第 1 の基板と前記第 2 の基板との間に配置された接着部材によって貼り合わされており、前記第 1 の基板は、前記一主面に形成された凸部を備え、前記凸部の前記一主面からの高さが、前記第 2 の基板の厚さと前記接着部材の厚さとの和よりも大きいことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記光ディスクでは、前記凸部の前記一主面からの高さは、0.05 mm 以上 0.5 mm 以下であってもよい。